

ドクターからの健康アドバイス

前立腺肥大症と前立腺がん



愛染橋病院
泌尿器科

おく やま あき ひこ
奥山明彦

迫を軽減したり、膀胱収縮（頻尿）を抑制する薬剤が使われるようになり、手術の必要な患者さんは随分少なくなりました。また大きくなった内腺をある程度小さくする薬剤もあります。

前立腺がんは肥大症とは異なり外腺から発生します。がんも肥大症とは全く別のものなのです。がんは50歳後半以降に発生、かなり進行すれば排尿障害がみられますが普通は無症状です。近年増加しており男性がんのトップを占めると予想されています。幸いなことにPSAと言われる腫瘍マーカーが発見に大きな役割を果たしています。50歳になれば年1回は血液検査をお勧めします。

最近ではPSA検査によって比較的早期に発見され、手術やレントゲン治療により90%以上の方が完全治癒されています。

高齢化に伴い肥大症、がんが増加します。気になれば泌尿器科専門医を受診するか、かかりつけの先生にお願いしてPSA検査を受けてください。

患者さんや知人からよく「前立腺肥大症からがんができるのですか？」と聞かれることがあります。しかしその前に前立腺の場所や働きをすこし説明します。

前立腺は膀胱から尿道に移る場所にあり20歳代では栗の実ぐらいのサイズ（20グラム）で精液の約30%を産生します。尿道を取り巻く内腺とその外側の外腺、外には硬い膜が囲みます。

最初に前立腺肥大症について紹介します。生殖活動がやや衰える40歳代より内腺が大きくなり、50歳を越えたと尿道を圧迫、排尿障害と言われる「尿が出にくい、時間がかかる、尿が近い」などの症状がでます。医師の治療を受ける場合が中高年者の10%程度と推定されます。従来は手術が治療の中心でしたが、20年ほど前より尿道への圧

気になる方は、泌尿器科
受診をしてください。

